

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
田岡 昌大			
月2、月3			
添付ファイル			

科目の概要	<p>教育は、誰もが何らかの形で経験する、日常的で身近なものである。それゆえ、誰もがこれについて素朴に語る事ができる。だが、日常的な感覚は、時に自身の価値観や経験に囚われた狭い見方である可能性も常にある。また、そこで「なぜ？」や「それは何を意味するのか？」と問うてみると、その問いは思いの外、答えを出し難いことに気付かされる。つまり、教育について自覚的に考えることは、日常的な感覚とは真逆に、広く深い思考を不可欠とするのである。</p> <p>本講義では、教育および教育学の基礎的な知見を通し、教育に関して自律的に思考するための基礎を確立することを旨とする。教育は、人間形成に関わるゆえに、あらゆる領域と隣接するものである。従って、この基礎的な知見の内には、学校教育に関わる事柄のみならず、社会全般と関わり、人間発達と関わりなど多岐に渡る。また、現在に関する事項から、歴史的・思想的な背景も含まれる。教育について思考するためには、こうした様々な知見をクロスさせることで、深く広く考える態度が求められる。</p> <p>また、こうした知見を通じて、各々の教育経験を捉え直すことによって、教育について深く、広く考えるための基本的な力量の形成を図りたい。</p>
授業の内容	<p>第1回 インTRODクシヨン 人間と社会にとって教育がどのような意味で必要かを考えることを通じて、「教育原理」を学ぶ意義を学ぶ。 受講に際しては、シラバスを事前に読んでおくこと。 また、「なぜ教育は必要なのか？」という問いについて、自分なりに考えておくこと。</p> <p>第2回 野生児について いわゆる「野生児」のアマラとカマラの事例を通じて、教育の必要性を人間の成長の観点から考える。 「野生児」の事例が、教育を考える上で、どのような意味で重要と考えられるか調べておくこと。</p> <p>第3回 教育と教育の目的 教育と社会の関係を考えることによって、教育の必要性を社会の観点から考える。 わが国において教育の目的を規定する法が何で、どのように規定されているかを調べておくこと。 また、自身の見解として、教育は何を目的とすべきと考えるか考えておくこと。</p> <p>第4回 「子ども」について 「子ども」に関する理解のあり方を学ぶと共に、これと教育の関係を理解する。</p> <p>第5回 教育の内容について これまでの講義内容を踏まえながら、人間と社会の形成のために求められる教育の内容について理解する。 また、現代において求められる学力の考え方を理解する。 受講に際しては、「生きる力」「確かな学力」「資質・能力」等、近年、学習指導要領や幼稚園教育要領等で用いられている表現について、その意味を調べておくこと。</p> <p>第6回 学校の成り立ちと展開 近代における学校教育制度の成立と展開、歴史的過程、基本的特徴などを理解する。 また、学校教育制度に関わる法律についても理解する。</p> <p>第7回 教育と発達① 教育と発達を関連付けて理解する意義を学ぶと共に、基本的な考え方を学ぶ。 講義では、心理学等の他の講義で学んだ内容に再び触れることが多くあることが予想される。 受講に際しては、これらの内容に関する復習をしておくこと。</p> <p>第8回 教育と発達② 教育を考える上で「発達」の概念を再検討すると共に、学校と教育について批判的に再検討を行う。 また、これによって教育をいかに考えるかを再考する。 受講に際しては、これまでの内容を踏まえて、教育（学校教育）にはどのような良い面と、悪い面とがあるかを自分なりに再整理しておくこと。</p> <p>第9回 中間まとめ、教育思想史① これまでの講義内容を振り返って中間的な総括を行う。 また、これまでの内容を基礎づける教育思想を学ぶ。 以後、教育思想史上の重要な人物を順次紹介していくが、ここではコメニウスの教育思想を学ぶ。</p> <p>第10回 教育思想史② ルソーの教育思想について学ぶ。 ルソーについては、高校でも学んでいるはずである。高校では、どのようにルソーについて学んだかを振り返って復習しておくこと。</p> <p>第11回 教育思想史③ ペスタロッチとフレーベルの教育思想について学ぶ。</p> <p>第13回 教育思想史④ ヘルバルトとデューイの教育思想について学ぶ。</p>

	<p>第14回 教育思想史⑤ 倉橋惣三と城戸幡太郎の幼児教育（保育）思想を学ぶ。 また、この両者をあえて対立的に位置づけて整理することで、教育の意義と限界とを考える。</p> <p>倉橋惣三については他の講義でも触れられていると思われる。 受講に際しては倉橋の保育思想がどのようなものであるか復習しておくこと。</p> <p>第15回 まとめ 15回の内容を振り返ると共に、改めて教育原理を学ぶ意味を考える。</p>
学習到達目標	<p>1. 教育および教育学についての基礎的な知識、思考法を獲得する。 2. 自身の教育観・子ども観・社会観を豊かにし、表現する。 3. 講義にて得た知見を用いて、応用的に思考し、表現する。</p>
授業の方法	<p>【授業形態】 講義形式</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 基本的には講義形式で行うが、近隣の者同士でのディスカッションも行う。 また、コメント・ペーパーにて講義の感想を求めると共に、そのリプライを講義内にて行う。</p>
成績評価の方法	レポート60%、小テスト40%（複数回にわたって実施）
教科書・テキスト	特に指定しない
参考書	<p>今井康雄編（2009）『教育思想史』有斐閣 眞壁宏幹編（2016）『西洋教育思想史』慶應義塾大学出版 古屋恵太（2017）『教師のための教育学シリーズ2 教育の哲学・歴史』学文社 この他は必要に応じて講義内にて指示をする。</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>講義を受講することで情報としての講義内容を得ることはできる。 しかし、それをいかに活用して思考するかは、講義外の自身の努力に支えられる。 本講義は、細かな知識の暗記等を過剰に求めるものではない。 従って、参考書を読む等の学修に加えて、新聞等から最近の教育を巡るニュースに注意を払ってください。 また、授業で扱う論点やトピックについて、友人同士で議論したり、自分で調べるなどして、思考を深められるように準備して欲しい。</p>
履修上の留意事項	<p>講義形式だが、講義での発言には可能な範囲で応じたいと考えています。積極的に発言ください。 ただし、私語含め、周囲の人の迷惑になる行動は慎んでください。 （どの範囲を「周囲の人」と認識し、何をもって「迷惑」と考えるかについては、初回の講義で説明します。）</p>
オフィスアワー	木曜3限
担当教員への連絡方法	m-taoka@osaka-aoyama.ac.jp
その他	